

2023-4-1
No.1087 500円

思想運動

HOWS講座・富山栄子報告より	2面
フィリピン共産党新書記長の東アジア分析	3面
日本の中国報道の神話(朱建榮)	4~5面
徴用工問題「解決策」を批判する	6面
シリコンバレー銀行の破綻の背景	7面
国際婦人デー集会3・4東京集会ルポ	8面
神田香織さん「はだしのゲン」問題を語る	10面

揺らぐ米一極支配とわれわれがすすむ道

過去を蔑ろにして未来はない！

訪日前に何が？

に投入されたのだ。この〇名の大量解雇問題が発生し、現場に駆けつけた上部労働争議が起きていたのだ。今回の岸田・尹錫悦の首脳会談ではそのような「宣言」の準備もなかった。

今回の尹錫悦来日で、岸田政権と戦犯企業は、戦時強制動員被害者への賠償問題について、POSCO(旧・浦項製鉄)などの、日韓条約で「恩恵」を受けた韓国企業が出す拠出金を、二〇二二年に発定した「日帝強制動員被害者受給財団」が受け、その基金で戦時強制動員被害者たちを「慰撫」しようとする、被害者たちを「保護国」化して、まるで宗主国に朝貢するかのようになっている。

当事者ぬきの解決策

一九九八年の小淵・大塚中の首脳会談時に発表された「日韓ハートナッシュ宣言」で、戦時強制動員被害者たちを「慰撫」しようとする、被害者たちを「保護国」化して、まるで宗主国に朝貢するかのようになっている。

一九九八年の小淵・大塚中の首脳会談時に発表された「日韓ハートナッシュ宣言」で、戦時強制動員被害者たちを「慰撫」しようとする、被害者たちを「保護国」化して、まるで宗主国に朝貢するかのようになっている。



中国はわたしたちの敵ではない

ANSWER連合戦争を止めレイシズムを終わらせるためにいまこそ行動を呼びかけて、三月十八日にフィリピン・DCCで大規模な反戦集会が開催された。写真は、集会に参加したコードピンクが撮影したもの。この抗議行動には一〇〇以上の団体が集結し、「ウクライナに停戦を」NATOにノー！平和にイエス」と主張、アメリカ帝国主義の軍事・外交政策の根本的転換を求めた。

たのであった。会談を通じて日韓首脳双方は「シャトル外交の再開、日韓GSO MIAの正常化、日米韓でのミサイル情報の共有、韓国への輸出管理規制の緩和、経済安保対話の枠組み新設」など一一致した報道されている。

宗主国態度貫く日本

今回の尹錫悦来日で、岸田政権と戦犯企業は、戦時強制動員被害者への賠償問題について、POSCO(旧・浦項製鉄)などの、日韓条約で「恩恵」を受けた韓国企業が出す拠出金を、二〇二二年に発定した「日帝強制動員被害者受給財団」が受け、その基金で戦時強制動員被害者たちを「慰撫」しようとする、被害者たちを「保護国」化して、まるで宗主国に朝貢するかのようになっている。

日米韓三国軍事演習

いま朝鮮半島では一触即発の危険な米韓日合同軍事演習が、昼夜を問わず連続している。三月十三日から二十三日まで連日、四時間態勢で強行された米韓合同軍事演習「フリーダム・シールド」には、沖繩からも米海兵隊が参加し、北の指導部を攻撃対象にした「斬首作戦」をめぐり「作戦計画2015」を更新した北侵ナリオのもと、核戦略爆撃機B1Bやステルス戦闘機F22、F35Bを投入して大規模な野外機動訓練が繰り返された。また、千日から四月三日までの日程で、米韓海軍の合同上陸訓練「雙龍訓練」が半島東側の浦項沖で展開され、さらに三月二十七日には、済州島沖で米核空母「ニミッツ」を旗艦とする第11空母打撃群が参加する海上訓練が行われた。「ニミッツ」は翌二十八日、釜山港に入港し、今後、日米韓三国の海上合同演習が行われる予定だ。米韓海軍は、こうした大規模訓練を今年二〇回以上も朝鮮半島周辺で繰り返していると明かしている。

対照的な二つの会談

朝鮮半島で一触即発の緊張がはじまっているなか、岸田は三月二十一日にウクライナに入り、ゼレンスキーと会談した。「電撃訪問」を演出しながら、ウクライナへの追加支援を約束して、その「外交成果」を誇示した。だがそれは、和平を呼びかける外交ではない。ロシアとの戦争を続けさせる戦争放火者の外交だ。その「外交成果」を誇示した。だがそれは、和平を呼びかける外交ではない。ロシアとの戦争を続けさせる戦争放火者の外交だ。

転倒した世界を正せ

三月十四日、日本で発行する『朝鮮新報』WEB版は金志永編集長の『平和に対する脅威』、主犯は米韓」と題する論説を掲載した(全文は<https://chosoninbo.com/p/2023/03/13-134/>)。そこでは、要旨次のように主張している。朝鮮半島の緊張が化から抜け出せない根本原因は米韓の朝鮮敵視政策にある。朝鮮が米韓の周辺で軍事訓練を行なったことは一度もない。二〇二二年五月二十二日に朝鮮の国連大使が国連事務総長に手紙を送り、国連安保理が朝鮮の核実験と人工衛星打ち上げ、弾道ミサイル試射が「国際平和に対する脅威」になると規定する法律的根拠について質問した。しかし、国連事務局は朝鮮「制裁決議」が、国連憲章に合致する合法的文書であると答えることができなかった。国連安保理は、米韓がすることばは挑発、威嚇であつても議論をせず、世界に災いをもたらす戦争国家が自国の利益に沿って二重基準を適用する朝鮮敵視政策の道具に成り下がっている。平和破壊の主犯である米韓の軍事行動は危険水域に達している。戦争抑止力を備えた朝鮮は、正義と平和の守護者として、無分別な強権に対する対抗措置をとっている。このように、朝鮮側の主張は明確だ。米帝國主義の一極支配が生み出した不義が正義を圧倒する転倒した野獣の世界に、朝鮮は自主権を賭けて闘っている。

一〇〇年前も現在も

一〇〇年前も現在も、そのいまだ一〇〇年前の一九一三年、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一九一三年、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。

そのいまだ一〇〇年前の一

そのいまだ一〇〇年前の一、辛亥革命を成し遂げて国内の統一を図るため東奔西走していた孫文は、犬養毅宛てた書簡で「公理」と「強権」の対立を指摘し、日本はどちらの側に立つのかを問った。さらに翌一四年、日本にやってくる孫文は、神戸で有名な「大アジア主義」の演説を行なう。そこでかれは、世界における「王道」と「霸道」の対立を説き、ここでも日本はどちらの側に立つのかを鋭く問いつけた。「公理」「王道」は、こんにちで機軸の解決は、すべての国の正言は「国連憲章」や「日本国憲法前文」につながる平和理念であり、「強権」「霸道」は、読んで字のごとく武力をもって強制するありかただ。習近平の「一〇〇年間見られなかった変化を……動かしているのだ」ということばに、辛亥革命から一九四九年の中華人民共和国の建国へ、左右の偏向を克服しながら世界を動かす力を蓄えてきた人民中国のつよい自信がうかがえる。